

茨木高校野球部

OB会報

発行

大阪府立茨木高校

野球部OB会

「The 高34回」

高34回 大西 正史



Episode 1 : 現在

平成25年4月某日午後12時過ぎ、単身赴任先のソウルで携帯が鳴った。自宅からだ。緊急事態か？と思いつながら受話器を取り、「なんかあった？」嫁さん（高34回旧姓能田）が「あると言えはあるかな。和田さんから連絡があつて、茨高野球部のOB会報に記事を書いて欲しいって。中山君（高34回副主将）と相談したら、主将の大西（筆者）にどう事になったみたいよ。」と。緊急事態でないことにホッと、そしてホッと過ぎた勢いで「ええよ、書くで。」この返事に逆にびくつくりしたのが嫁さん。「ええのん？16000字ぐらい書かなあかんらしいよ。」。原稿締切り直前、悪戦苦闘している「現在」。

Episode 2 : 遭遇

昭和54年4月、期待に胸を膨ら

ませて茨高入学。何の迷いもなく野球部へ。真黒に日焼けした先輩諸氏や、未だ青白い顔の高34回同期との初「遭遇」。

Episode 3 : 同期

◆1番サード「中山」
「硬球って当たつたら本当に飛びますね！」と興奮気味の中山。試合ではサードの頭をフラフラと超え、ファールゾーンをどんどん切れていく2塁打を量産。「中山ヒット」だ。

◆2番セカンド「小田切」

同期一の盛り上げ役。先生や同級生のモノマネをしては、皆を笑ったのは、昭和55年9月、秋の大会初戦、貝塚戦。2塁ランナーの牽制に入った小田切はベースに躓き転倒。緊張感から解放された茨高は「10-13」で7回コールド勝。

◆3番レフト「湯下」

「革靴」を履いたさつそうした姿と、「前店（旧正門前）にあった駄菓子屋」で買ったアイスの「アタリ」に喜ぶ顔。このギャップが湯下。当然「アイスのアタリ」は小田切のモノマネレパートリーの一つ。

◆4番マネージャー「船戸」

◆5番マネージャー「能田」

中軸は何と言っても2人のマネージャー。暑い日も寒い日も、毎日黙々と部員のサポートをしてく

れた。この場を借りて「ありがと」。

そして、我々の中でマネージャーといえば「お嬢ちゃん」事件。

昭和55年4月、春の大会第2戦、東淀川戦。9回表相手の攻撃を迎え「4-13」。この回を押しきれば2回戦突破！が、2点を抑えられて「4-15」。初戦の雨中の寝屋川戦を「9-16」と逆転した好調

茨高は、9回裏に1点をもぎ取り「5-15」で延長戦へ。10回、11回、12回、13回、14回、お互い無得点で「5-15」のまま15回。この時、主審が茨高ベンチへ来て、スコアをつけていたマネージャーに、「お嬢ちゃん、今、何回？」。

「お嬢ちゃん」という呼びかけが意外過ぎてか、ベンチは？？？それが良かったのか15回表の相手の攻撃を抑え、裏の攻撃で1点をとり「6-15」のサヨナラ勝。

◆6番セーター「黒川」
同期一の強肩。スピードもピカ一。しかしコントロールが殺人的。高一の夏、藤井大丸で、スピードガンでの球速測定会。開始時間より早く行くと、打ち合わせ中だったゲストの阪神タイガース・村山監督が、フットボールの握り方、投げ方を教えてくれ、キャッチボールまで。黒川はあの村山さん相手に殺人的暴投をしていた。

◆7番キャッチャー「本田」
本田は「天然」。お嬢ちゃん事件の東淀川戦、1点ビハインドの9回裏、代打で登場の本田の打球はセカンド正面のゴロ。誰も百万事休すと思ったその時、打球は大きくイレギュラーし右中間2塁打。その間にランナーがホームインし同点、サヨナラのチャンス。本田は塁上で得意満面の笑顔。ところ

が、直後に牽制アウト。満面の笑は一転して引きつって、無かった。「悪い、悪い」。やはり「天然」。

◆8番レフト「清水」

同期の頭脳。夏合宿では寝言でも勉強。そういう清水の意外な一面。阪急十三駅の阪急そばで大手前高校野球部と一緒に。部員のカバンを整理整頓している同校マネージャーに感激した清水。その大手前との練習試合。試合前からそわそわ、試合では三週間をしぶとく抜いた「根性ヒット」。しかし試合後の挨拶時、「あれ、あの子やったかな？」。清水から大手前という単語は発せられなくなった。

◆9番ライト「藤原」

なんとも捉えどころのない藤原。皆のバカ話にボツとだが痛烈なツッコミ。捉えどころのないのが今も継続中。たまには現れてツッコミを入れてくれ。

Episode 4 : 財産（筆者の思い出）

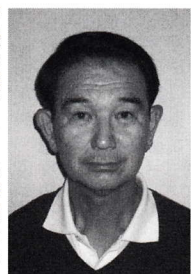
①1年夏の背番号1、②2年春の雨中の寝屋川戦でリリーフし公式戦初勝利、③2年夏の大会前に骨折して出場できなかった、④3年間、夏は1勝もできなかった。嬉しいこと、悔しいこと、数え上げたキリはないが、愉快なそして個性的な「同期」との出会いが最も貴重な「財産」。

Episode 5 : Final
全くアイデアが浮かばず、同期の事を暴露的な内容も含め書かせて頂きました。同期の皆様、ごめんなさい。

又、同期に加え、岩附先生、森田監督や尾崎監督、先輩&後輩の皆様を支えられ、充実した3年間を過ごせたのだと、改めて思い返す事ができました。ありがとうございます。

部長より

高21回 池永 徹



新緑の候、OBの皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じます。

今年も野球部のOBが大学入試において頑張ってくれました。64期生は現役で数多くの合格者が出ましたので、浪人生となる今年はあまり期待できないだろうと思っていました。ところが私の予想に反して極めて好成績でしたので、最近5年間に卒業した野球部OBの京阪神3大学への進学率が49.3%になりました。これまでも約1/3である学校全体の数値をわずかに上まわってはいましたが、これをはるかに上まわる驚異的な数字になりました。たいへんうれしく思っています。

4月から6年ぶりに担任をしています。再任用になったこともあり、60期生を3年間担任した後担任なしで過ごしていました。今年担任予定だった理科の先生が転勤になり、その補充として66期生3年生の担任になりました。担任するものもこれが最後になるのは間違いないので、精一杯取り組んでいます。

一身上の都合で和田先生が監督を退任することになりました。夏の大会を前にチームが動揺することのないよう、側面からバックアップしたいと考えています。OBの皆様もご支援よろしく願っています。